



京都府議会議員

藤山ゆきこ

活動報告
Vol.27
2022.4

大好きな
まちのため

大切な
ひとのため

新年度がスタートしました。コロナは終息していませんが新しい局面を迎え、少しずつ日常を取り戻しつつあります。2月定例会では一般質問に立たせていただき、予算委員会の副委員長を務めました。令和4年度の予算は知事選挙があったことから骨格予算になっていますが、今後、西脇知事が目指される京都府づくりに向けた具体的な施策と共に補正予算が組まれることと思います。今わが国は大きな過渡期の中にあり、コロナによる混乱、更には世界情勢も緊迫した状況が続いています。平和はいつでもそこにあるものではなく、不断の努力によって繊細なバランスの上に成り立っているものだということを多くの方が痛感されたのではないのでしょうか。その中で、まずは自国の国民の命と財産をしっかりと守っていくことが基本です。そのための食の安全保障、エネルギーの安全保障は欠くことができません。京都府議会議員として府民の皆様を守るため特にこの2点をしっかりと取り組んでいきたいと考えています。皆さまにはどうぞ引き続きのご指導とご鞭撻を賜りますことを心よりお願い申し上げ、新年度のご挨拶とさせていただきます。

京都府議会議員 藤山裕紀子



京都 Go To Eat! キャンペーン 利用期間が 2022年5月20日まで 延長

- 食事券の利用期間延長について
現在お手元にお持ちの、2021年3月31日(水)まで有効・2022年3月15日(火)まで有効と記載の食事券はそのまま引き続き、2022年5月20日(金)まで利用可能。
 - 京都府内の京都GoToEat食事券登録利用店舗でのみ利用可能。
(同店舗実施のテイクアウトやデリバリーでも利用可能)
 - 参加利用店舗は予告なく変更する場合あり。
- ※食事券が利用可能か念のため事前に
利用店舗までお問い合わせください。

【問合先】京都 Go To Eat キャンペーン事務局
075-276-4051 (9:30 ~ 17:30 土日祝除)

利用可能店舗等、詳細は

京都GoToEat

検索

2月定例会一般質問

《 1 》 きょうとこどもの城づくり事業について

本府では、平成25年から子どもの貧困対策の取組として、子どもの生活支援や学習支援などを行う居場所の整備を開始。「京都府子どもの貧困対策推進計画」を平成27年3月に策定、平成29年からは、きょうとこどもの城づくり事業に取り組んでいる。現在、府内では、居場所づくりが16団体30箇所、こども食堂が51団体51箇所で開催されている。

- (1)本府がこどもの城づくり事業を開始し5年が経過する中、これまでの着実な取組により、支援の輪が府域でしっかりと広がりつつあることを実感するが、この間、こどもの城が果たしてきた役割と成果をどのように考えているのか。
- (2)子どもの居場所や食堂は、子どもや家庭が抱える問題に気付き、それを関係機関と共有し適切な支援に繋ぐことにより、子ども・子育て支援の総合的な入口となり得ると考える。こどもの城づくり事業が、様々な状況に置かれている子どもたちをしっかりと受け止め、子どもたちが夢と希望を持って成長することで、知事の掲げる「あたたかい京都づくり」にも繋がると考えるが、今後の展開はどうか。

全国に先駆けて「子どもの貧困対策推進計画」を策定し、すべての子どもが生まれ育つ環境に左右されることなく、将来に夢や希望を持ち成長していける社会の実現を目指して、取組を進めてきた。

その中心施策として創設し推進してきた「きょうとこどもの城づくり事業」は、地域のニーズや子どもたちの実情に合わせて、NPOや自治会など様々な民間団体に、「子ども食堂」や「子どもの居場所」、「地域未来塾」などの支援策を、実施いただいている。

<おもな支援策>

- ・孤食解消のため無償や低価格で食事提供するとともに、支援が必要な親や子を福祉施策につなぐ入口となる「子ども食堂」
- ・ひとり親家庭の子どもと保護者が集い、生活習慣の確立や学習習慣の定着を図るための「子どもの居場所」
- ・学習が遅れがちな中学生等に学習支援を行う「地域未来塾」

<利用者からの声>

- ・「様々な世代の人と一緒に食事をとることで、地域の人と知り合うきっかけとなった。」
- ・「相談できる大人がみつきり、悩みを聞いてもらう中で目標をもつことができた。」
- ・「楽しく勉強ができ、学習する習慣が身についた。」



<コロナ禍における実施団体からの声>

- ・「困窮する家庭への食料・生活必需品配布により、支援に繋がっていなかった方々を繋げることができた。」
- ・「学校行事が中止・縮小される中、年末年始の特別な催しを提供でき、子どもたちの笑顔が嬉しかった。」

このように「こどもの城づくり事業」は、コロナ禍においても福祉施策に繋ぐ入口となる拠点としての役割を果たしてきた。最近では、子どもたちへの支援に留まらず、多世代交流や地域コミュニティ復活の場としても機能しており、地域再生の一翼を担う施策に成長していると考えている。

今後の展開については、制度開始当初の67箇所から現在146箇所まで拡大し地域ごとのニーズを踏まえ、着実に支援の輪が広がっている一方で、未実施の市町村もあり、地域偏在がみられる。

このため、近くに「子どもの居場所」がない子どもを送迎するための支援制度を創設するとともに、豊富な活動実績を有する団体を地域の支援拠点事業者者に位置づけ、「子ども食堂」や「子どもの居場所」の立ち上げ支援や運営ノウハウの提供を行うことで、実施団体や箇所の拡大を図りながら取組を継続していくとともに、コロナ禍でも運営を継続できるよう、下支えする取組を強化し、事業の効率的かつ効果的な展開を図っていきたい。

<実施団体のご意見>

- ・コロナの感染対策と事業継続の両立に苦労している。
- ・食材やスタッフがまだまだ不足をしている。
- ・支援が必要な子どもに気づくにはどうすれば良いかわからない。
- ・市町村、学校、福祉団体といった関係機関ともっと連携したい。

<下支え取組の一部>

- ・感染拡大防止に係る消毒液やマスク等の購入経費への支援
- ・「きょうとフードセンター」からの食材提供や、ボランティア確保のためのマッチング支援
- ・支援者の知識や技量の向上を図る人材育成研修の実施
- ・市町村、学校、福祉団体等で構成の「ネットワーク会議」開催による情報共有や顔のみえる関係づくりの推進

また、子どもの夢の実現を妨げる新たな課題として、家事や家族の世話などを日常的に行っている、いわゆるヤングケアラーへの支援が求められており、「ヤングケアラー総合対策センター」の開設などに必要な経費を今定例会予算案に計上している。実施団体からは「ヤングケアラーを幼いきょうだいとともに子どもの居場所で受け入れ、支援につなげられないか。」との声もあり、今後、地域における支援策として検討していきたい。

このように、「こどもの城づくり事業」は、地域福祉の充実を図るための拠点として、今後も様々な役割を果たすことが可能だと考えており、市町村や学校等との連携を強化するとともに、課題を抱える子どもを早期に発見し、適切な支援につなげ、すべての子どもが生まれ育つ環境に左右されることなく、将来に夢や希望を持って健やかに成長できる社会の実現を目指して「あたたかい京都づくり」を推進していきたい。



昨年9月定例会でガバメントクラウドファンディングを活用した人材育成を提案したが、いかにやる気と熱意のある職員を育てるかによって本府の行政の未来が変わると考える。

- (1)ワークライフバランスは、仕事と生活の双方を充実させ、より良い人生を送ろうとするものであり、府庁においても毎月19日を「府庁育児の日」とするなど、取組を進めている。一方で、労働生産性の向上も重要であると考え、働き方改革の中で、業務の質の向上にどのように取り組むのか。
- (2)近年、府職員採用試験の競争倍率が低下しているが、どのように分析しているのか。また、府職員という仕事に興味を持ち、就職したいと思わせるような仕掛けが必要と考えるがどうか。
- (3)平成31年3月に国家公務員の兼業の許可基準が明確化され、公益的活動等に伴って社会通念上妥当とされる範囲の報酬を得るという意味での副業が可能となった。地域活動への参加は新たな課題の発見や現場感覚を養うために有意義であり、活動を通して府政への府民の理解等を深める機会にもなると考えるが、府職員の兼業について、地域の活性化や社会的課題の解決の観点も含め、今後どのように取り組むのか。

令和2年4月策定の「京都府人材確保・育成指針」で、「現場主義を徹底すること」「前例にとらわれないこと」「多様な主体と連携すること」の3つの姿勢の定着を図ることを基本として、使命感を持ち、困難な課題にも積極的に取り組む中で、着実に成果を上げる職員の育成に努めている。

そのため、まずは意欲や行動力を有する人材確保が必要になるが、近年、定年退職者の増加に伴う必要数に対し、一定の受験者数は確保できているが、民間企業への就職意欲が高いことから、競争倍率としては低下状況である。

受験者数を増やすため、人事委員会とも連携しながら、大学の就職説明会へ先輩職員を派遣し、府庁で働く魅力を直接伝える取組や、仕事のやりがいを伝えるPRムービーを配信するなど、積極的に進めている。

新たな取組として、政策の企画・立案の実体験や、「京都府庁2DAY仕事体験」を実施予定で、1人でも多くの方に受験していただき、府政の推進に求められる基本的な意識や姿勢、能力を有する人材を確保していきたい。

また、確保した人材の定着や育成のためには、働きやすい職場づくりを進めると同時に、業務の質の向上を図ることで府民サービスの水準を維持・向上させることが重要で、そのためには、職員の意識改革が大きく影響する。

日々の業務指導や階層別研修などを通じ、職員としての使命と組織内での役割、業務に対する改革・改善についての意識付け、業務の集約化や外部委託化など、組織的な業務改善にも取り組んでいる。

今後も、更なる業務の質の向上に向け、こうした取組やICTの積極的な活用による業務の効率化を進めながら、職員個人に加え、組織全体としての改革・改善意識を高める取組を継続し、職員が施策の企画・立案や専門的業務に注力できる体制づくりを進めていきたい。

職員に対しては府庁のみならず、地域でも活躍できる人材となるよう、地域活動やボランティアへの参加を促しており、兼業という形で地域活動に参加することは、現地・現場主義や多様な主体との連携・協働意識を育むという点で有意義かつ担い手不足となっている社会活動の推進や地域振興にも資するものであると考える。

そのため、京都府では、令和元年5月にNPO等の非営利団体において公益的活動を行う場合等の取扱いを明確化し、円滑な制度運用に努めている。これまでに、職員が地域文化のアドバイザーやリカレント教育の講師などとして活躍していることから、今後も、職務専念義務などの法の趣旨を踏まえながらも、積極的に後押しをしていきたい。

体系立てた職員の確保・育成の取組を通じ、職員に3つの姿勢の定着を図ることにより、将来にわたり、満足度の高い府民サービスをしっかりと提供できる執行体制を確立していきたい。

<令和3年2月定例会提案予算(4年度当初予算等)の概要>

総額 1兆878億4,800万円

令和4年度当初予算…1兆382億7,200万円
令和4年度2月補正予算…236億3,400万円
令和3年度2月補正予算…259億4,200万円

1.命・暮らし・事業を守るコロナ対策

(1)命・健康を守るコロナ対策

- 受入病床の確保等……………332億8,000万円
- 入院待機ステーション
(臨時の医療施設)の運営等……………5億5,100万円
- 宿泊療養施設の運営等……………60億400万円
- 自宅療養者の生活支援
(自宅療養安心パックの配送等)……………7億7,300万円
- 検査体制確保等……………12億9,400万円
- 医療従事者の負担軽減や
特殊勤務手当等の支給支援……………5億6,400万円
- 飲食店の感染防止対策認証制度の運用等……………1億円
- 社会福祉施設の感染防止対策……………8億6,800万円
- ワクチン接種体制確保事業費……………33億8,600万円

3回目接種が早期かつ円滑に進むよう実施
・モデルナワクチン接種会場の設置・運営等

(2)雇用・暮らしを守るコロナ対策

- 地域雇用再生緊急対策事業費……………2億3,900万円
- 学生就職応援事業費……………5,000万円
- 女性活躍総合支援事業費……………1億2,500万円
- きょうとこどもの城づくり事業費……………1億5,200万円

子ども食堂等の取組を後押しするため、
運営費助成に係る加算を継続

- 生活福祉資金貸付事業費……………15億6,100万円

(3)事業者支援・緊急経済コロナ対策

- 金融・経営一体型支援体制強化事業費
……………4億4,500万円

各企業に応じたきめ細かな支援を実施するため
体制等を強化。金融機関と経営支援機関の橋渡
しを行う。 **特別経営指導員を増員(4→9名)等**

- 中小企業金融支援費……………1,566億7,000万円
- 伝統産業新規展開促進事業費……………3億1,500万円
- 中小企業等外国人材受入緊急支援事業費
……………5,600万円
- 京都舞鶴港コンテナ物流機能確保事業費
……………1,200万円

2.府民の安心・安全対策

(1)医療・福祉・生活の安心・安全

- 看護・福祉施設職員処遇改善事業費
……………39億6,300万円
- 潜在看護師再就業支援強化事業費……………2,500万円
- ヤングケアラー支援体制強化事業費……………2,700万円

ヤングケアラーの認知度向上や支援体制の整備
(ヤングケアラー総合対策センターの開設)

- 医療的ケア児支援強化事業費……………5,400万円

医療的ケア児やその家族に対する支援を強化
・医療的ケア児等支援センターを開設
・特別支援学校に通学する医療的ケア児への
支援制度の創設

- 発達障害児支援医療・福祉・教育等
連携強化事業費……………500万円

初診待機期間の短縮に向けた取組を強化
・こども発達支援センターの体制強化
(精神科医と非常勤看護師各1名増員)
・関係機関との連携体制構築、専門育成

- 児童虐待総合対策事業費……………1億5,200万円

「京都府子どもを虐待から守る条例」を制定し、
取組を強化
・SNS(LINEなど)相談開始 令和4年7月から
・京都SARAの24時間対応開始
・保護者カウンセリングや児童虐待アドバイザー
の市町村派遣等の重要な取組は継続実施

(2)防災・減災・国土強靱化による安心・安全

- 危機管理センター整備費……………1億円

令和5年度の稼働に向けた整備
・災害対応機能を集約し
対策本部会議室を常設化
・総合防災情報システムを核とした
情報通信システムを整備

- 安心・安全基盤、道路整備による強靱化
……………722億9,900万円

- JR奈良線複線化・高速化整備事業費
……………33億2,500万円

令和4年度末開業予定に向けた整備促進

(3)大雪被害対策

- 雪害対策費 ……………4億2,500万円

3.子育て・教育環境の充実

(1)子育てにやさしい風土づくり

- 子育てにやさしい風土づくり推進事業費
……………3,800万円

オール京都で展開するWEラブ赤ちゃんプロジェクト等の取組を強化

- WEラブ赤ちゃんプロジェクトの更なる浸透に向けた取組
- 子育て環境日本一手帳の作成

(2)子育てにやさしい職場づくり

- 子育てにやさしい職場づくり事業費 …8,200万円

企業における働きやすい職場づくりの取組を支援

- 多様な働き方推進事業費補助金
- 子育てに優しい職場環境づくりサービス創造補助金

(3)子育てしやすいまちの実現

- 子育てにやさしいまちづくり事業費
……………1億5,000万円
- 妊産婦包括支援事業費 ……………5,600万円
- 不妊治療給付等事業費 ……………3億7,400万円

保険制度と府独自制度により経済的負担を軽減

- 治療費の助成：保険適用を受ける治療
(上限6万円/年)
先進医療の適用を受ける治療
(上限10万円/年)
- 治療回数：全ての府民を対象に10回まで
独自支援 (上限15万円/回)

仕事と治療の両立が進むよう支援を強化

- 未入園児保育支援事業費
(2歳児子育て支援利用料減免) …2,600万円
- あんしん修学支援事業費
(学費軽減同時在学加算) ……………2,300万円

- 京都式「教育DX」推進事業費 ……7億4,800万円

ICT教育の推進と保護者負担軽減制度の創設

- 保護者負担軽減
府立高校生1人1台タブレット端末本体購入費の1/3程度を支援 (上限1万円)
※年収472万円未満世帯は2/3程度まで支援 (上限2万円)
- 「京都府デジタル学習支援センター」を新たに設置

- 私立高等学校ICT環境整備支援事業費
……………4,700万円

4.文化振興と魅力ある地域づくり

- 新行政棟・文化庁移転施設整備費
……………35億5,600万円
- 文化芸術発信強化事業費 ……………1億7,500万円
- 旧本館ルネサンス事業費 ……………8,500万円
- 「移住するなら京都」推進事業費 …2億5,100万円
- アート&テクノロジー・ヴィレッジ整備事業費
……………4億円
- 京ものブランド総合戦略事業費 …1億6,200万円
- 林業・木材産業等振興施設整備事業費
……………4億1,300万円
- 海洋調査船建造費 ……………11億1,000万円

5.追加提案分

オミクロン株の特徴を踏まえた学校等への支援

- 学校教育活動の継続に対する支援
……………1億9,300万円
- 保育所等の感染防止や事業継続に対する支援
……………2億4,000万円
- 高齢者施設等の感染防止や
サービス継続に対する支援 …12億6,400万円

● 高齢者施設等の感染防止や事業継続を支援

- 施設内感染専門サポートチーム
(感染専門医、救急医、感染専門看護師)の派遣

- 時短の要請に協力していただいた
事業者への協力金等 ……369億9,300万円

事業者等への支援強化

- 中小企業等 ……………6億6,000万円
- 農林水産業 ……………6億6,000万円
- 観光関連・交通事業者 ……………8億7,000万円

ウクライナ情勢を踏まえた支援強化 ……3,000万円

「新白鳥トンネルの着工を祝う会」 in 舞鶴

東西舞鶴を結ぶ府道の渋滞解消と歩行者の安全確保にむけ、4車線化を進めるため築造されます。舞鶴の皆さん念願のトンネル。1日も早い供用開始が望まれます。



「府道郷ノ口余部線宇津根橋開通式」 in 亀岡

高校生が自転車通学に利用しているのに車の離合が困難なほど狭小な橋でした。地元の方々の長年の願いが実現した日です。



「消防出初式&新年会」 in 久御山・宇治・西小倉

ここ2年はコロナで様々な行事が中止され、参加は久しぶり。どうも鈍ってしまったようで久御山→宇治の移動に失敗し、楽しみにしていた放水を両方とも見る事ができませんでした。今年も市民町民の安心と安全のために、どうぞよろしくお願い致しますと祈りながら、地元自治会の新年会に遅れての参加。以前お世話になった「みんなのプラス」の皆さんの演奏を聴くことができ、早くコロナが終息し、また多くの方々と集える時には素晴らしいステージをお願いしたいです。



「京都ビジネス交流フェア2022」 in パルスプラザ



京都で頑張っておられるものづくり企業の方に会いに行きました。まだまだコロナの影響はありますが、皆さん前向きに様々な努力工夫しながら頑張っておられます。

「節分祭」 in 宇治神社

コロナのため、昨年に引き続き、豆まきではなく豆くぼり。皆さんにたくさんの福が訪れますように！



「京都府スポーツ賞表彰式」 in KBSホール

地元でお世話になっている方のお嬢さんにご受賞され会場思いがけずお会いしました。2人ともとても可愛くて、めっちゃくちゃ空手が強いんです！これからのますますのご活躍が楽しみです。受賞された皆様、おめでとうございます！



「子育て応援見本市in山城」 in イオンモール久御山

「京都府子育て環境日本一推進会議」はウーマンエキサイトがプロデュースする「WEラブ赤ちゃんプロジェクト」に賛同し、子育てを社会全体であたたかく見守り支えようという運動を展開しています。



写真のアンナさんはウクライナ出身で京都に留学、起業されました。日本の女性へのヘルスケアサポートが遅れていると感じ、妊活アプリの開発など女性の心と身体に寄り添った支援を行ってられます。私自身も身体には無頓着ですが、妊娠したいときにできる身体であるために、子どもの頃から自分の身体を知り大切にする教育はとても重要だと思いました。



Facebookは、「藤山ゆきこ」で検索 🔍

【発行】藤山ゆきこ事務所

〒611-0042 京都府宇治市小倉町久保109 辻岩ビル本館1F

TEL&FAX 0774-23-9844

yukiko.fujiyama1107@gmail.com